もっと詳しく知りたい！

佐渡島の金山

世界遺産先取りガイドブック



佐渡島の金山はユネスコの世界

「佐渡島の金山」の2つのエリア


金鉱石

相川鶴子金銀山

相川鶴子金銀山では硬い金鉱石に含まれる「目にみえない金」を得るため、様々な技術と生産の仕組みが発展しました。


砂金

西三川砂金山

佐渡で最古とされる砂金山です。「目にみえる金」である砂金を効率的に得る「大流し」という独特な採掘方法が行われました。



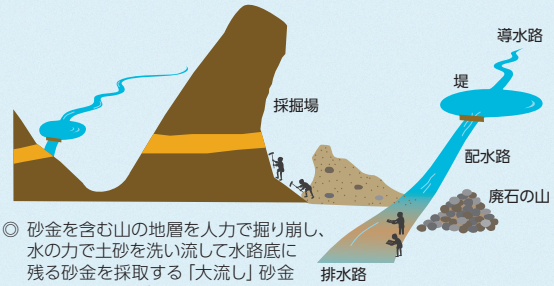
「佐渡島の金山」の4つの特徴

「佐渡島の金山」の4つの特徴は「金生産技術」を示す特徴1・2と、「金生産体制」を示す特徴3・4であり、2023年1月にユネスコに提出した推薦書ではそれぞれ世界遺産登録のための評価基準（iv）と（iii）に相当するものとして記載しています。

1 鉱床の特性に適合して深化した伝統的手工業による鉱山技術 〔基準(iv)〕

2つのエリアの鉱山の特徴に合った技術が導入され発展したことが分かります。

西三川砂金山【堆積砂金鉱床：「大流し」砂金採掘法】



◎ 砂金を含む山の地層を人力で掘り崩し、水の力で土砂を洗い流して水路底に残る砂金を採取する「大流し」砂金採掘法の遺構が残っています。

相川鶴子金銀山【鉱脈鉱床（鉱石）：鶴子から相川へ採掘の大規模化・技術的な改良】



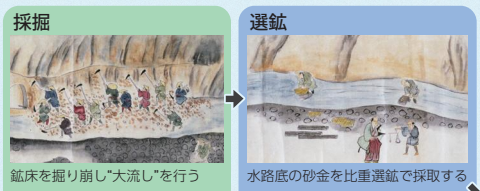
◎ 硬い岩石を人力で掘削して鉱石を得る採掘技術が大規模化し、発展した様子が分かります。
露頭掘り：地表面に露出した鉱脈を採掘する方法
ひ追い掘り：地中に延びる幅の狭い鉱脈を追いかけて採掘する方法
坑道掘り：水平方向に坑道を掘り、多数の並行鉱脈を同時に採掘する方法

2 高品位の金生産を可能とした一連の生産工程 〔基準(iv)〕

分業体制を整え、各工程に従事する労働者の専門性と技術精度の向上を図っていたことが分かります。

〔図出典〕 西三川砂金山：「西三川砂金山稼方図」（新潟県立歴史博物館）
相川鶴子金銀山：「佐渡の国金掘ノ巻」（相川郷土博物館）

西三川砂金山



相川鶴子金銀山



【金生産技術において重要な段階を示す物証】 *世界文化遺産の評価基準(iv)

「佐渡島の金山」は、国外からの技術や知識が制限される中、伝統的手工業を深化させることで高品位の金を生産した手工業の技術的な到達点を示す物証です。

文化遺産登録を目指しています

「佐渡島の金山」では、2つのエリアの鉱山の特性に適した生産組織が形成され、徳川幕府の管理・運営の下で伝統的手工業に基づく大規模な生産体制として発展を遂げました。また、幕府の施策により日本各地から鉱山に集まった人々によって独自の鉱山文化が育まれました。

3 徳川幕府の施策に基づく管理・運営と大規模に統合された金生産体制

〔基準(iii)〕

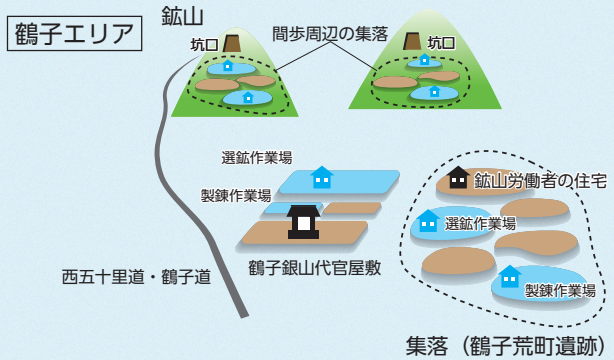
鉱山の管理・運営に関わる遺跡、集落の遺跡から当時の生産組織の状況を知ることができます。

西三川砂金山

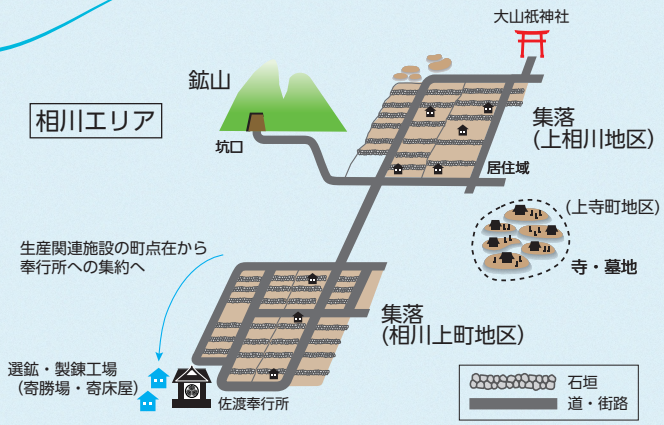


◎ 採掘の跡地に17世紀初め頃形成された2つの居住域は敷地の配置や形状に規則性を持たず集落構造を維持し続けることが大きな特徴です。
◎ 奉行所（金山役所）の管理の下、鉱山労働者でもある村人たちの集団労働によって砂金採掘が行われました。

相川鶴子金銀山



◎ 自然地形を大きく改変せず、不整形な平坦地を設けた集落構造をもち、選鉱や製錬の場所が散在しています。
◎ 代官の支配の下、組織的な生産が開始され、分業体制が確立されたことがわかります。



◎ 管理・運営の拠点として佐渡奉行所が設置され、鉱山と奉行所を結ぶ主要道を軸に街路と地割が整えられ、大規模な鉱山町が誕生しました。
◎ 町が創建された17世紀初頭は、職業別に居住場所が決められ、選鉱・製錬などの生産施設が点在する職住一体の町でしたが、18世紀半ば以降は効率化のために奉行所内の選鉱工場・製錬工場に生産施設が集約されて、職業混住の町へと変化しました。

4 鉱山の人々によって育まれた鉱山由来の文化

〔基準(iii)〕

日本各地から集まった人々によって持ち込まれた文化や伝統が独特な鉱山文化として発展しました。



鉱山の神を祀る神社と鉱山の繁栄を背景とした豊かな文化
(西三川砂金山 大山祇神社・能舞台)



全国各地から集まった人々の多様な信仰(様々な宗派が集まる)
(相川金銀山 上寺町地区 寺院跡)



鉱山にまつわる神事芸能(「やわらぎ」)
(相川金銀山)



鉱山町を舞台に行われる祭礼
(相川金銀山)

【生産体制の傑出性を示す物証】 *世界文化遺産の評価基準(iii)

徳川幕府の管理の下、機械化された技術を導入せずに、伝統的な手工業に基づく鉱山運営体制を著しく発展させ、250年間も継続したことを示す傑出した物証です。これにより独自の鉱山文化が生まれ、発展していきました。

「佐渡島の金山」の世界遺産としての価値

「佐渡島の金山」は16世紀末から19世紀半ばにかけて、豊かな金鉱山の島である佐渡島において、徳川幕府の管理・運営の下、いわゆる鎖国政策によって海外との技術交流が限られる中、ヨーロッパとその影響下にある地域とは異なるシステムとして発展を遂げ、世界に誇る質・量の金（世界生産量の10%、最高純度99.54%）を生産した伝統的手工業による大規模かつ250年以上の長期にわたり継続した金生産システムを示す稀有な産業遺産です。

徳川幕府の財政を支えた佐渡の金

～空前の発展を遂げた鉱山町～

佐渡で産出された金を用いて小判の製造が行われました。これは国内の鉱山では唯一のことです。小判は江戸へと運ばれ、徳川幕府の財政を支え続けました。

徳川幕府は 佐渡島の金山を重視し、金生産を効率的かつ長期にわたって継続させるため、資金の投資と労働環境の整備を行いました。

とりわけ鉱山経営の中心地となった相川の町は元々小さな漁村でしたが、金の発見とともに計画的な地割や街路を持つ大規模な町が整備されました。そして、金生産に必要な労働者や人材が全国各地から集まったことで、人口最大5万人とも言われる当時の国内有数の都市へと発展を遂げました。



オランダに現存する「佐渡小判」

オランダ王国貨幣コレクション（アムステルダム）所蔵

佐渡で作られた小判は江戸に運ばれ、主に幕府の財政資金として用いられました。17世紀、オランダ東インド会社を通じて大量の小判が持ち出され、一部は遠く欧州まで運ばれたものもあります。

西三川砂金山･相川鶴子金銀山の概要

《西三川砂金山　砂金鉱床・大流し》

◎西三川砂金山は、佐渡最古の金の産地として12世紀の『今昔物語集』に登場する砂金を採掘する鉱山です。小規模な採掘活動が行われていましたが、16世紀末に大規模模な採掘が始まり、徳川幕府の直轄地となった17世紀初頭からは佐渡奉行所の管理・運営の下で、村人達が共同で砂金採掘を行っていました。

◎砂金を含む山の地層を掘り崩し、水勢を利用して砂金を採掘・選鉱する「大流し」という独特な採掘法が行われていました。現地には今も導水路・堤・配水路・採掘場・排水路など、「大流し」の全体像を示す遺構が良好に残っています。

◎大流しによって形成された採掘跡の平坦地に二つの居住域が成立しました。集落は、家屋や敷地の配置や形状に規則性を持たないことが特徴で、江戸時代を通じて大きく変化することはありませんでした。

◎集落には、管理・運営に関わる金山役宅跡、村人達の取りまとめ役として操業を差配した金子勘三郎家住宅の他、鉱山の文化を示す鉱業の神を祀った大山祇神社や能舞台があり、操業当時の鉱山の村の雰囲気を感じることができます。

◎明治時代になった直後に砂金山が閉山しますが、人々は離散することなくこの地に留まり、生業を鉱業から農林業に転換しました。今も、末裔達がこの地に暮らしています。



西三川砂金山遠景



砂金採掘場跡の山々と鉱山集落

《相川鶴子金銀山　鉱脈鉱床・鉱石の採掘》

◎相川鶴子金銀山は、鉱脈鉱床と呼ばれる硬い岩石（鉱石）中の金銀を採掘した鉱山です。16世紀半ばに採掘が始まった鶴子エリアは、西三川砂金山と同様に16世紀末に本格化し、採掘・選鉱・製錬の一連の工程の基礎が確立しました。

◎鶴子エリアでは、地表面に露出する鉱脈を掘削する「露頭掘り」、幅の狭い鉱脈を追いかけて掘り進む「ひ追い掘り」から複数の鉱脈を目がけて水平に掘る「坑道掘り」へと採掘法が変遷しました。掘り出した鉱石を砕いて選別する「選鉱」、化学的に処理して金属を取り出す「製錬」（鉛を用いた灰吹法）などの痕跡も残り、鉱山技術の導入・工程の確立期の状況がわかります。鉱山へと向かう主要道（鶴子道）沿いに管理・運営を行った代官屋敷と鶴子荒町の集落が成立するなど、組織的な分業体制により生産が始まった初期の鉱山集落の状況をよく残しています。

◎鶴子エリアの鉱山技術者によって発見された相川エリアは、17世紀初頭から本格的な開発が始まりました。大規模で地下深くにのびる国内最大級の鉱脈が密集していたため、まもなく開発の中心地となり、広範囲に採掘が及びました。道遊の割戸は、大規模化した鉱山を象徴する遺跡です。

◎相川エリアの鉱脈は、金に銀が多く含まれる「エレクトラム」鉱であったため、選鉱、製錬・精錬によって金と銀を分離する複雑な工程が発展しました。貨幣の製造を認められた国内唯一の鉱山として高品質な金（最高純度99.54%）の製造のため、技術の深化と生産環境改善に幕府が投資を続けました。

◎徳川幕府による佐渡島の金山の管理・運営の中心地の相川エリアには佐渡奉行所が置かれ、奉行所と鉱山を結ぶメインストリートに鉱山町が整備された結果、人口は最大5万人とも言われる大規模な町が誕生しました。

◎全国から集まった人々が持ち込んだ様々な文化・伝統により、佐渡島には独特の鉱山文化が発展しました。西三川と同じく鉱業の神を祀った大山祇神社跡、様々な宗派の寺院跡、鉱山での神事や鉱山町を舞台にした祭礼は、精神的な拠り所として人々に活力を与えるとともに組織の結束を深め、生産組織の長期継続を支える重要な役割を果たしました。



相川鶴子金銀山遠景（南西方向から）



相川上町の町並み（写真前）と鉱山の山々（写真奥）

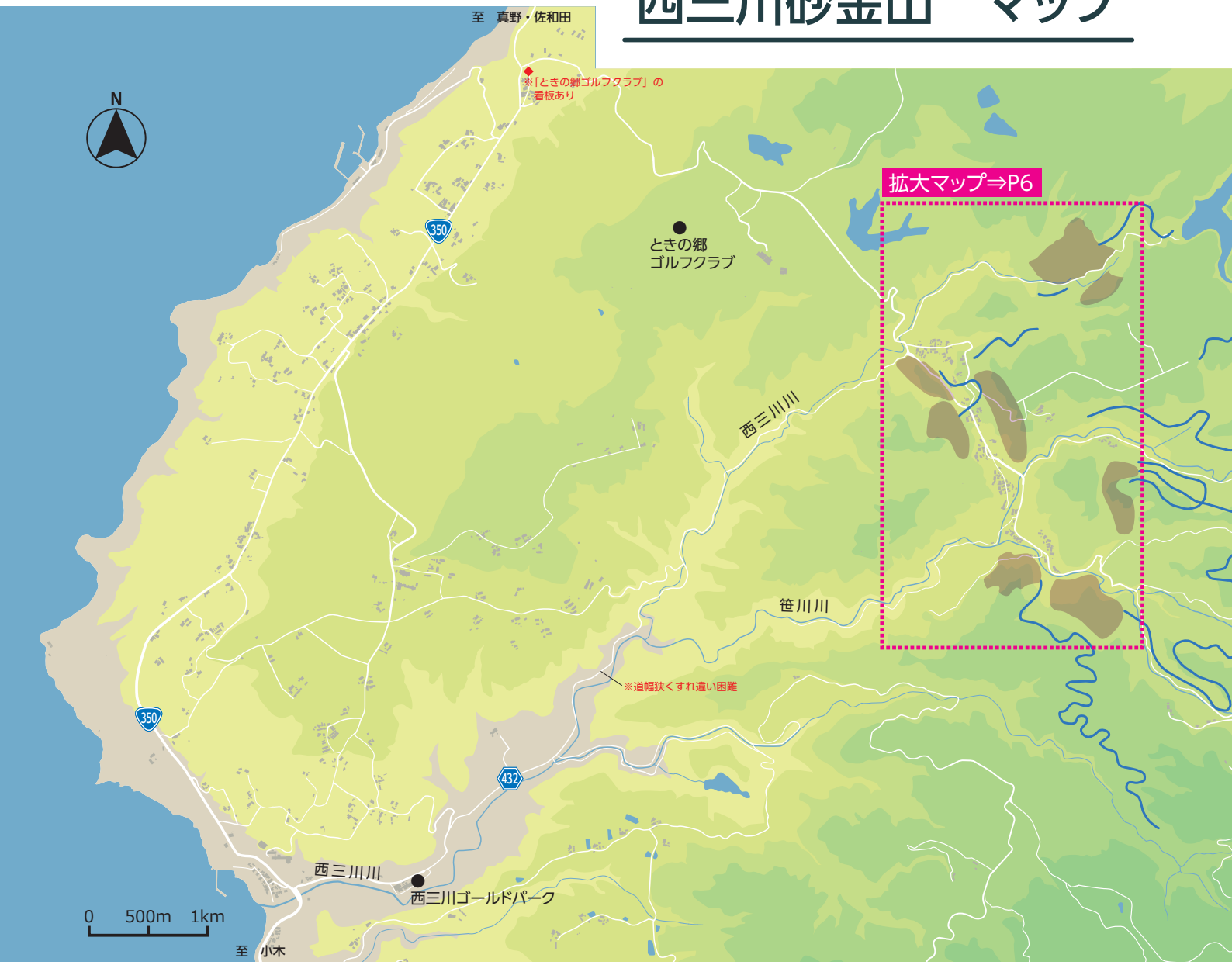


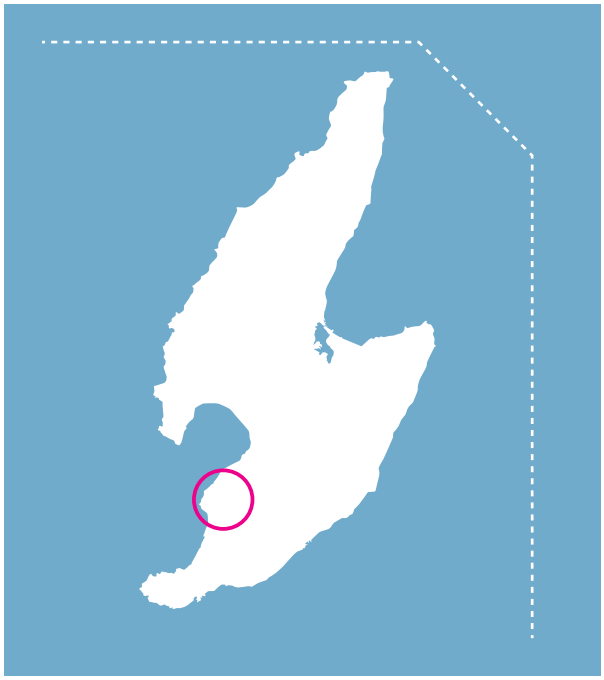
坑道掘り跡（相川金銀山 大切山間歩）



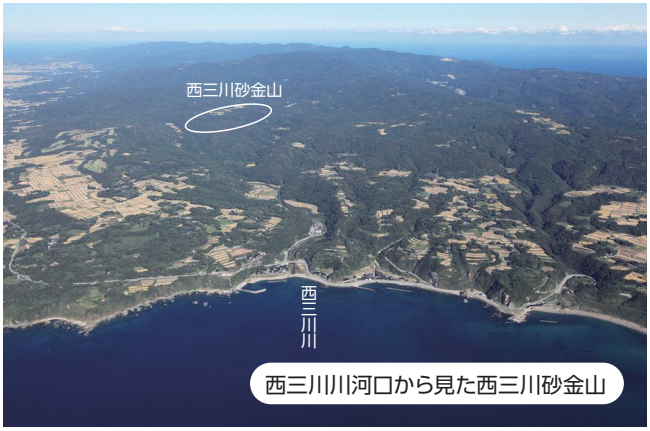
佐渡奉行所跡（徳川幕府の管理運営拠点）

西三川砂金山　マップ

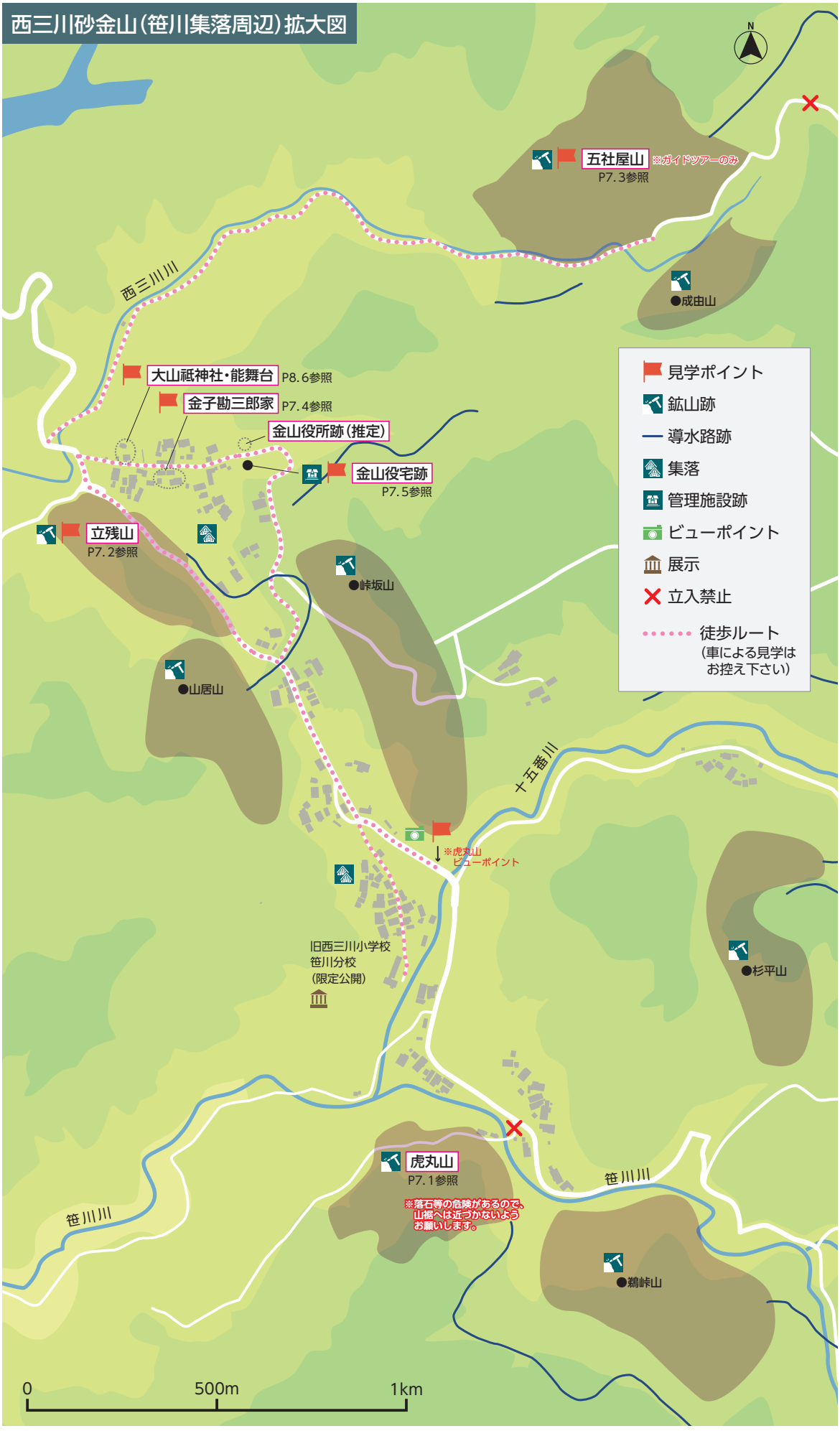




- 西三川砂金山のエリア（現 笹川集落）は、現在も住民が居住し、農業を中心とする人々の生業が営まれている場所です。一般の観光地と異なり、道標および解説板以外は観光客向けの施設を設置していません。
- 鉱山跡および導水路跡の山中は安全に見学できるルートが確保できないため当面の間立ち入りをご遠慮下さい。



西三川川河口から見た西三川砂金山


西三川砂金山（笹川集落周辺）拡大図
N
五社屋山
※ガイドツアーのみ
P7.3参照
●成由山
西三川川
大山祇神社・能舞台
P8.6参照
金子勘三郎家
P7.4参照
金山役所跡（推定）
金山役宅跡
P7.5参照
立残山
P7.2参照
●峠坂山
●山居山
十五番川
※虎丸山
ビューポイント
旧西三川小学校
笹川分校
（限定公開）
●杉平山
虎丸山
P7.1参照
※落石等の危険があるので、
山裾へは近づかないよう
お願いします。
笹川川
笹川川
●鵜峠山
見学ポイント
鉱山跡
導水路跡
集落
管理施設跡
ビューポイント
展示
立入禁止
徒歩ルート
（車による見学は
お控え下さい）
0
500m
1km

「佐渡島の金山」西三川砂金山　重要スポット紹介

1 虎丸山（とらまるやま） 《公開※》

※山裾は落石等の危険があるため、ビューポイントから見学をお願いします。



©西山芳一

西三川砂金山最大の採掘場（稼ぎ場）跡です。現在も「大流し」によって掘り崩されたため露出した赤い山肌を見ることができる、砂金山のシンボル的な存在です。江戸時代の絵図には山の上下で採掘を行っていた様子が描かれています。

2 立残山（たてのこしやま） 《公開》



砂金採掘場の一つで、山の両側から掘り崩されたことにより形成された切り立った斜面や山裾には大きな水路跡を見ることができます。また、この採掘場に水を供給していた石積みの水路跡や堤跡なども残っています。

3 五社屋山（ごしゃやま） 《限定公開※》

※ガイドツアーのみでの公開となります。



五社屋山は江戸時代を通じて採掘が行われた場所です。導水路跡、堤跡、配水路跡、採掘場跡、排水路跡、石組遺構など、「大流し」による砂金採掘の一連の工程全体を示す遺構がコンパクトに残っています。

4 金子勘三郎家（かねこかんざぶろうけ） 《公開※》

※現在、保存修理工事を実施中のため、敷地内への立ち入りはできません。



江戸時代後期から明治５（1872）年の閉山まで金山の世話役を務めた金子家の住宅です。世話役は金山役（奉行所派遣の役人）と集落との橋渡しを行い、村人（鉱山労働者）を取りまとめ、「大流し」の作業を差配しました。19世紀頃建築された木造の主屋や土蔵、納屋、牛納屋などで構成され、「大流し」の差配を行っていた時の様相を知ることができると共に砂金山閉山後に、鉱業から農林業に生業を転換した過程を示しています。

5 金山役宅跡（きんざんやくたくあと） 《公開》



西三川砂金山には金山役所が置かれ、佐渡奉行所から2名の役人が派遣されて管理・運営を行いました。金山役宅跡は金山役所に派遣された役人の住宅跡です。江戸時代の絵図に描かれたとおりの場所に石垣に囲まれた平坦地が残り、役宅跡の道路を挟んで向かい側の畑地が金山役所跡と推定されます。

6 大山祇神社・能舞台（おおやまずみじんじゃ　のう ぶ たい）　《公開》



砂金山の繁栄と作業の安全を願って1593（文禄2）年に建てられた神社です。社殿や関連施設は建て替えを繰り返しており、現在の社殿は1928（昭和3）年に再建されたものです。境内地は砂金採掘によって掘り下げられたため、一段低くなったと言い伝えられています。境内には1800年代後半に建てられた能舞台があります。

7 笹川集落（ささがわしゅうらく）　《公開※》

※現在も住民の生活の場となっています。私有地への立ち入り、車両の駐車等はご遠慮下さい。



砂金採掘に関わった人々によって営まれた集落であり、現在もその末裔の方々の生活・生業の場となっています。元々は「金山（十八枚）」と「笹川」という別々の集落でしたが、16世紀末頃から「笹川十八枚村」と呼ばれ、一つの集落となりました。砂金採掘場の山々に囲まれた山間部にあり、閉山後は生業を農業へと転換したものの、江戸時代と敷地の配置や居住形態を変えることなく操業当時の鉱山の村の面影を残しています。

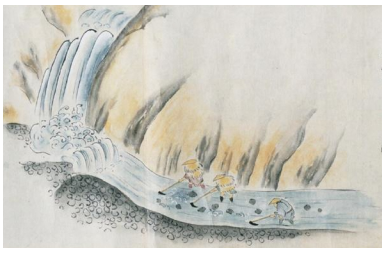
西三川砂金山の「大流し」砂金採掘法

『佐州金銀山之図』（新潟県立歴史博物館所蔵）

西三川砂金山は山の地層の中に砂金を含む鉱床（堆積砂金鉱床）であったため、砂金を得るためには山の地層を掘り崩し、さらには不要な土砂を取り除くことが不可欠でした。そのため西三川では、山を人の力で掘り崩し、遠方の水源から集めた大量の水の力を使って土砂を洗い流して砂金を得る「大流し」という方法で採掘を行いました。「大流し」は１か月単位で行われ、得られた砂金は全て相川へと運ばれて、精錬が行われました。



1）砂金を含む土砂を山裾に設けた水路に向かって掘り崩す。



2）水路の中に簗を設け、堤の水を放水し、不要な土砂を洗い流す。砂金は重く流れず底に残る。



3）水で流れずに残った大小の石を取り除く。



4）水路底の土砂を「ねこだ」（ワラで編んだむしろ）に流しかけ、ねこだの編み目に砂金を付着させる。

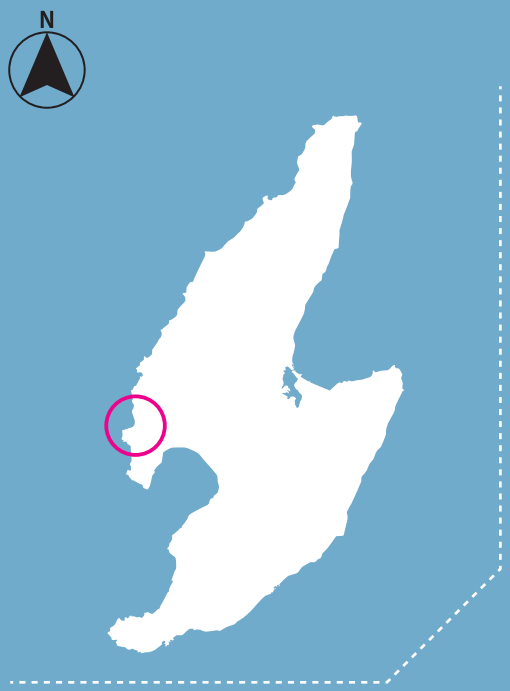


5）ねこだに付着した砂を汰板（ゆりいた）に移し、水中で揺すって砂金を取り上げる。砂金は計量して紙に包み封印する。



6）毎月末に封印した砂金を金山役所で開封し、奉行所と金掘りたちの取り分を決める。（ただし、支払いは銀で行われ、金は全て奉行所へ）

相川鶴子金銀山　マップ



至　二ツ亀

45

拡大マップ②⇒P11

相川エリア

佐渡奉行所跡

463

相川上町地区

31

きらりうむ佐渡

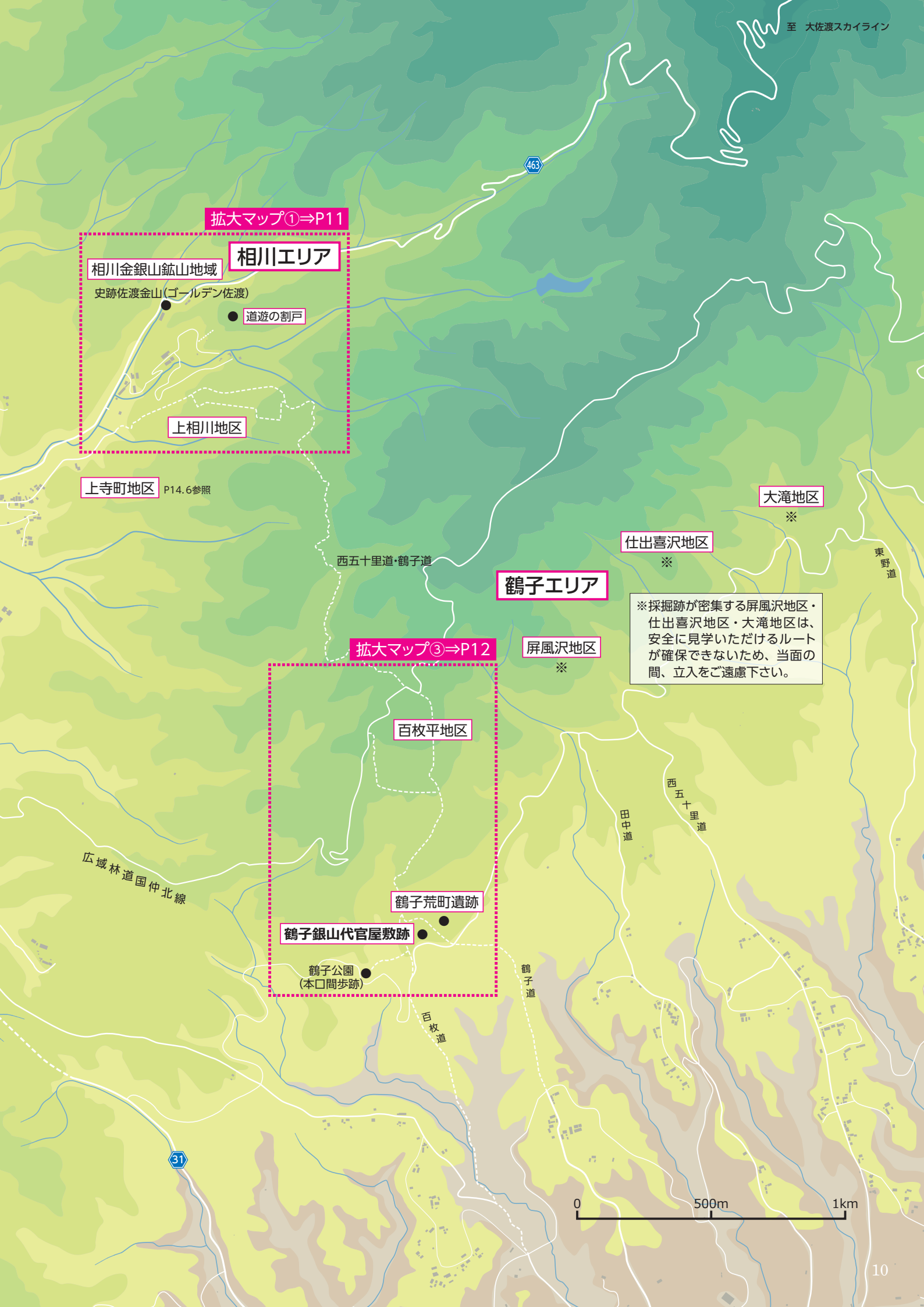
31

45

春日崎
(相川金銀山とまちなみのビューポイント)

中山トンネル


春日崎から見た相川エリア


至　大佐渡スカイライン
463
拡大マップ①⇒P11
相川エリア
相川金銀山鉱山地域
史跡佐渡金山(ゴールデン佐渡)
道遊の割戸
上相川地区
上寺町地区
P14.6参照
西五十里道・鶴子道
鶴子エリア
大滝地区
※
仕出喜沢地区
※
東野道
※採掘跡が密集する屏風沢地区・仕出喜沢地区・大滝地区は、安全に見学いただけるルートが確保できないため、当面の間、立入をご遠慮下さい。
拡大マップ③⇒P12
屏風沢地区
※
百枚平地区
広域林道国仲北線
鶴子荒町遺跡
鶴子銀山代官屋敷跡
鶴子公園
(本口間歩跡)
百枚道
鶴子道
田中道
西五十里道
31
0
500m
1km





□□ 相川上町地区の特徴 □□

- より多くの人々が居住できるように石垣を設けて段々の平坦地が広がっています。
- 町が作られた江戸時代初期（17世紀初め）の街路や地割が大きく姿を変えることなく残っています。
- この町では職業によって居住するエリアが決められていました。奉行所の役人たちのエリア（広間町）、山師や金穿大工のエリア（新五郎町、大工町など）、商人たちのエリア（米屋町、味噌屋町）など、その名残が今も町名として残っています。
- 江戸時代の後も鉱山町として続いたこともあり、建て替えられた建物が多いですが、鉱山町の雰囲気を今に伝えています。



来訪者の皆さまへのお願い　見学のルールとマナー

- 住民や他の来訪者の迷惑にならないようマナーを守りましょう。
- 鉱山跡などでは危険な箇所があります。立入禁止の場所には絶対に入らないで下さい。
- 遺跡や建物を傷つける、出土品・土石・動植物を持ち帰るなどの行為は禁止されています。
- ゴミは各自でお持ち帰り下さい。
- 見学場所での火気の取り扱いは厳禁です。タバコは決められた場所で喫煙しましょう。
- 交通ルールを守って周遊しましょう。(路上や民家敷地内への駐車はご遠慮願います)
- 地図上の「徒歩ルート」は車での見学をお控えいただきたいエリア、または車の乗り入れができないエリアです。

「佐渡島の金山」相川鶴子金銀山　重要スポット紹介

1 佐渡奉行所跡（さどぶぎょうしょ）　《公開・有料》



徳川幕府は佐渡奉行を派遣して、鉱山の管理・運営のほか直轄地として島全体の統治にあたらせました。奉行所は拠点となった場所で1603年に設置されました。敷地内には行政・司法に携わる施設に加え、選鉱や製錬・精錬など金銀生産の工場が併設されていました。過去5回の火災により建物が焼失し、その度に再建されました。現在の建物は、江戸時代末の奉行所を復元したものです。

2 道遊の割戸（どうゆうわりと）　《公開・有料》



国内最大の露頭掘り跡（延長約120m、幅10～30m、深さ74m）です。手作業で鉱脈部分だけを掘り取ったため、山の中央部がV字状に割られたようになっています。18世紀の絵巻にも山が割られたような姿が描かれており、江戸時代にすでに今の姿だったことがわかります。道遊の割戸の特異な景観は相川の様々な場所から望むことができ、相川金銀山のシンボルといえます。

「史跡佐渡金山」（株式会社ゴールデン佐渡）では割戸をより近くで見ることができます。

3 宗太夫間歩（そうだゆうまぶ）　《公開・有料》



江戸時代初期の大型の斜坑道を代表するもので、鉱石の運搬や排水作業のために効率が良い傾斜で掘削されています。壁面には手掘りによる鑿（のみ）跡が残っています。狸掘（たぬき）り（鉱脈を探すための小規模な探索坑）や枝分かれする坑道などから、当時の採掘作業の進め方がわかります。

現在、「史跡 佐渡金山」（株式会社ゴールデン佐渡）として当時の坑道を利用して、作業の様子を人形で忠実に再現し、一般公開しています。

4 大切山間歩（おおぎりやまま ぶ）　《限定公開・有料》



1634年に掘削が始められ、14年の歳月をかけて鉱脈に到達したと言われています。この坑道の大きな特徴は、採掘のために人が作業・通行する本坑道と並行してもう1本の通気坑道を掘削し、両者を連結坑で繋いで坑内の空気循環を良くする工夫が施されています。

現在、「史跡 佐渡金山」のガイド付きツアーのコースとして限定公開しています。

5 上相川地区（かみあいかわ）　《公開※》　※ガイドによるツアー等もあり。



東西800m、南北300m、東西の高低差が約100mある斜面地に街路や平坦地を計画的に配して造成された鉱山集落です。相川金銀山の開発初期の16世紀末から17世紀が最盛期で、それ以降は衰退し、江戸時代が終わると廃絶しました。

地区の各所で選鉱や製錬に関する遺構や遺物が確認でき、山師（やまし）（鉱山技術者兼経営者）が率いた技術者や労働者たちによる職住一体の鉱山町であったことを示しています。

6 上寺町地区（かみてらまち） 《一部公開※》

※公開場所は、きらりうむ佐渡でご確認ください。



山の急な斜面地を造成し、寺院が建ち並んでいた地区です。日本各地から佐渡に移住した人々や僧侶がこれらの寺院を建立したといわれています。これらの寺院は信仰のための施設であることに加え、人々の集会場としての機能を有していたと考えられています。絵図や記録と現地を対比した結果、現存する万照寺（まんしょうじ）のほか６か所の寺院の位置及び遺構を特定でき、建物の基礎・石垣・石段などのほか多数の墓石が残されていることがわかりました。

7 相川上町地区（あいかわかみまち） 《公開※》

※現在も住民の生活の場となっています。私有地への立ち入り、車両の乗り入れはご遠慮ください。



相川金銀山の鉱山地域南側の尾根上に設けられた鉱山町です。17世紀初め、佐渡代官（のちの奉行）大久保長安（ながやす）は相川に奉行所を設置し、奉行所と採掘場所を結ぶ主要道に沿って規格性・計画性の高い地割りを持つ町の建設を進め、管理・運営、生産、商業など職業別の街区を定めて人々を住まわせました。創建当時の名残を示す街路や地割り、職業や鉱山に関わる人名を示す町名が今も残り、鉱山町の雰囲気を伝えています。

8 鶴子銀山代官屋敷跡（つるしぎんざんだいかんやしき） 《公開》



16世紀末、戦国大名上杉氏の佐渡支配に伴い、代官による銀山の管理・運営のために設置されました。1603年に徳川幕府による支配に代わると、管理・運営の機能は相川に移されますが、17世紀半ば頃までその出先機関としての役割を担ったと考えられます。発掘調査の結果、敷地は機能の異なる3つの区域（上段：選鉱作業場、中段：製錬作業場、下段：管理施設）からなることが明らかになりました。

9 鶴子荒町遺跡（つるしあらまち） 《公開》



鶴子代官屋敷跡の東側に隣接する鉱山集落跡です。斜面地を大規模に改変することなく、地形に沿って大小の不定形な平坦地を順次造り出しています。これは、操業が拡大した16世紀後半に鉱山労働者が増加して、急速に集落が成立・拡大した様子を示しています。17世紀半ば頃の銀山の衰退とともに相川金銀山へ多くの人々が移住し廃絶したと考えられます。

10 百枚平地区（ひゃくまいだいら） 《公開※》

※ガイドによるツアーでの見学をお勧めします。トレッキング向けの装備が必要です。



鶴子銀山での分布調査によって、露頭掘り跡556基、ひ追い掘り跡4基、坑道掘り跡（間歩跡）108基の採掘跡が見つかりました。中でも百枚平地区は、鶴子銀山で最も初期に開発されたと考えられる代表的な採掘域です。百枚平と呼ばれる尾根の周辺に、採掘初期段階の大型の露頭掘り跡が密集しています。

「佐渡島の金山」の現地見学は
「きらりうむ佐渡」(佐渡金銀山ガイダンス施設)から出かけよう!


きらりうむ佐渡外観


展示室内

佐渡島の金山の玄関口として、資産の紹介と現地訪問に関する情報発信を行っている施設です。

館内の展示室では大型の映像、模型、グラフィック等で資産の価値や魅力をわかりやすく解説します。また、観光案内所も併設しており、レンタサイクルの貸出し、ガイドツアーやアプリを活用した現地探訪のための情報を提供しています。

新潟県佐渡市相川三町目浜町18番地1
Tel. 0259-74-2215　Fax. 0259-74-2223
開館時間：8時30分～17時(展示室最終受付16時30分)
休館日：年末年始(12月29日～1月3日)
入館料：無料【展示室観覧は有料:大人300円、小・中学生150円、
団体(15人以上):大人250円、小・中学生100円】

〈交通アクセス〉

■新潟港から両津港(佐渡汽船)
カーフェリー　2時間30分
ジェットフォイル　67分

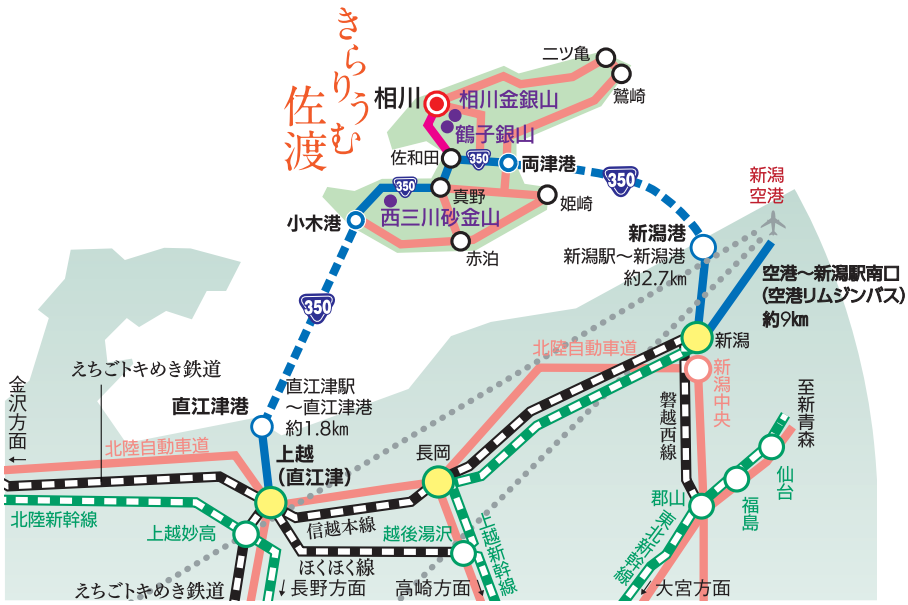
■直江津港から小木港
カーフェリー　2時間40分

■自家用車・レンタカーご利用の場合
両津港から　約50分
小木港から　約75分

■路線バスご利用の場合
両津港から「本線」乗車　約55分
小木港から「小木線」乗車　約80分
(佐和田BC乗りかえ)
「きらりうむ佐渡」下車すぐ

車でお越しの方は「きらりうむ佐渡」の無料駐車場をご利用下さい。





新潟県 観光文化スポーツ部
文化課世界遺産登録推進室
〒950-8570　新潟市中央区新光町4-1
Tel:025-280-5726　Fax:025-280-5764
E-mail:ngt150030@pref.niigata.lg.jp

佐渡市 観光振興部
世界遺産推進課
〒952-1292　新潟県佐渡市千種232
Tel:0259-63-5136　Fax:0259-63-6130
E-mail:k-goldmine@city.sado.niigata.jp

「佐渡島の金山」ホームページ(新潟県観光文化スポーツ部文化課)
https://www.sado-goldmine.jp

「佐渡を世界遺産に」ホームページ(佐渡市役所)
https://www.city.sado.niigata.jp/site/mine/